

2020年4月7日

各 位

大阪信用金庫  
理事長 高井 嘉津義

## 定例調査：第183回 景気動向調査（1～3月期）

- ☆失速 急降下！リーマンショックを超えるか？・・・・・・・・・・売上DI-25.1
- ☆設備投資 予定減らず・・・・・・・・・・「予定あり」0.1ポイント上昇
- ☆作れず 売れず 顧客来ず・・・・・・・・・・「売上停滞減少」55.4%
- ☆それでも賃上げする・・・・・・・・・・実施予定22.6%

### ●失速 急降下！リーマンショックを超えるか？・・・・・・・・・・売上DI-25.1

総合では、売上DIが-25.1（前回比△23.6ポイント）、収益DIが-25.1（前回比△20.7ポイント）となり、売上DIは、東日本大震災直後（2011年6月期 売上DI-25.2）に迫っています。リーマンショックの際には、2008年12月期の売上DIが-34.1（前回比△16.7ポイント）に下落しましたが、今回はそれ以上の下げ幅となっており、インバウンド需要の減少や消費者が不要不急の外出を控えたことが要因であると思われます。特に飲食業の売上DIは、前回△35.3ポイントと下げ幅が最も大きくなりました。

2020年4-6月期の見通しでは売上DI-35.2と更なる下落を予想しており、今後、感染拡大が長期化すればリーマンショックと同等もしくはそれを超える売上の減少になると思われます。

輸入の停滞が製造業や卸売業、運輸業に悪影響を及ぼし、小売業や飲食業、サービス業は自粛要請とインバウンド需要の下落による影響が直撃、建設業は部材不足で売上不振、その影響が不動産業に及び、景気の先行きに暗い影を落としています。

### ●設備投資 予定減らず・・・・・・・・・・「予定あり」0.1ポイント上昇

設備投資は、総合では「実施中」8.0%（前回比△0.9ポイント）、「予定あり」7.9%（前回比+0.1ポイント）で合計15.9%（前回比△0.8ポイント）となり、設備投資意欲は昨年6月より徐々に後退しています。しかし、卸売業や小売業、建設業では「予定あり」は上昇し、設備投資に前向きな企業もあります。

### ●作れず 売れず 顧客来ず・・・・・・・・・・「売上停滞減少」55.4%

経営上の問題点は、総合では「売上停滞減少」が55.4%（前回比+11.2ポイント）、「仕入単価上昇」が37.4%（前回比△4.4ポイント）、「人手不足」が32.0%（前回比△5.2ポイント）となり、「売上停滞減少」が急上昇しました。しかし依然として「仕入単価の上昇」37.4%、「人手不足」32.0%、「価格競争の進展」32.0%と高く、問題点は多岐に亘っています。また、建設業やサービス業では、依然、「人手不足」が最大の問題であり、従業員の確保に懸命です。

### ●それでも賃上げする・・・・・・・・・・実施予定22.6%

賃上げを実施する企業は、22.6%（前年比△2.3ポイント）となりました。米中貿易摩擦や消費税率引上げに加え、新型コロナウイルスの影響で景気は深刻な影響を受けていますが、賃上げを実施する企業は少なくありません。人材の流出を防ぐために運輸業や卸売業では前年より上昇し、業種間でバラつきが見られます。

調査時点：2020年3月上旬

対象期間：2020年1～3月期（実績） 2020年4～6月期（見通し）

対象企業：当金庫お取引先1,743社（大阪府内、尼崎市）

回答企業数：1,469社（回答率84.2%）

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所（担当：平山）

TEL：(06)6775-6590 FAX：(06)6772-1630

E-mail: souken@osaka-shinkin.co.jp URL: <http://www.osaka-shinkin.co.jp>